

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	世界史	担当教員	空 健太	
学年学科	1 年 M・E 学科	通年	必修	2 単位
学習・教育目標	(A-1) 100%		JABEE 基準 1 (1) (a) 50%、(f) 50%	
授業の目標と期待される効果： 1 年生の歴史は世界史を扱う。この授業では、世界史上の人物に焦点を当てる。授業の目標は、ある時代における世界史上の人物を評価する活動を通して、学生諸君が批判的に考える力を獲得することである。 この授業では歴史について以下のようなスタンスをとる。歴史と過去は異なる。過去は「在ったこと」であり、歴史は「書かれたこと」あるいは「残されたこと」をもとにつくられるものである。現代から過去にアプローチをすることによって歴史が生まれる。ゆえに歴史とは有限のパースペクティブを持つ一定の視点からしか語りえないものである。 学生諸君には歴史をそれしかないものと捉えることなく、別の歴史もありうるということという多様な見方や考え方を身に付けてほしい。その上で、批判的に考える力をつけることによって、さまざまな歴史をめぐる言説を自ら吟味し判断することができるようになることを目指す。		成績評価の方法： 前期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 100 点(C) 後期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 100 点(C) 学年：前・後期の重みを等しくして成績評価を行なう。 ※各期および学年の成績評価は、A+B+C を 100 点に換算し総得点率で 10 段階評価を行う。 達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 ①世界史における人物とその時代を理解することができる。 ②世界史における人物に関わる複雑な文書を読むことができる。 ③世界史の人物に関わる史資料から重要な事実を集めることができる。 ④世界史上の人物について、論理的な評価を行うことができる。		
授業の進め方とアドバイス： 授業は講義も必要に応じて行うが、基本的に学生の活動を中心に進める。したがって、授業を受ける際には課された課題を各自で準備しておくことが必要である。授業後は各自で授業内容を整理するとともに、次の課題を実施し理解を深めていくこと。				
教科書および参考書： 『詳説世界史』(山川出版社) および『最新世界史図表タペストリー』(帝国書院) を参考文献として使用する。その他、必要に応じてプリント等の資料を配布する。				
授業の概要と予定：前期				AL のレベル
第 1 回：イントロダクション				C
第 2 回：権力による社会(1)—ローマ帝国の成立とオクタヴィアヌス—				C
第 3 回：権力による社会(2)—史料からオクタヴィアヌスについて考える—				B
第 4 回：権力による社会(3)—オクタヴィアヌスを評価する—				A
第 5 回：権力が分立する封建制社会(1)—プランタジネット朝とアキテーヌのアリエノール—				C
第 6 回：権力が分立する封建制社会(2)—史料からアリエノールを考える—				B
第 7 回：権力が分立する封建制社会(3)—アリエノールを評価する—				A
第 8 回：中間試験				
第 9 回：人物から世界史を考える(1)				C
第 10 回：宗教とその改革(1)—キリスト教とルター—				C
第 11 回：宗教とその改革(2)—史料からルターについて考える—				B
第 12 回：宗教とその改革(3)—ルターを評価する—				A
第 13 回：絶対王政から議会政治への変革(1)—クロムウェルとイギリス内戦—				C
第 14 回：絶対王政から議会政治への変革(2)—史料からクロムウェルを考える—				B
期末試験				
第 15 回：4 つのテーマに対する歴史解釈の考察				C

授業の概要と予定：後期	AL のレベル
第16回：後期授業イントロダクション	C
第17回：国家の近代化(1)―ピョートル大帝とロシアの西洋化―	C
第18回：国家の近代化(2)―史料からピョートル大帝を考える―	B
第19回：国家の近代化(3)―ピョートル大帝を評価する―	A
第20回：貿易活動の活発化と奴隷貿易(1)―ジョン・ニュートンと大西洋三角貿易―	C
第21回：貿易活動の活発化と奴隷貿易(2)―史料からジョン・ニュートンを考える―	B
第22回：貿易活動の活発化と奴隷貿易(3)―ジョン・ニュートンを評価する―	A
第23回：中間試験	
第24回：革命による国家の変容(1)―ロベスピエールとフランス革命―	C
第25回：革命による国家の変容(2)―史料からロベスピエールを考える―	B
第26回：革命による国家の変容(3)―ロベスピエールを評価する―	A
第27回：植民地化と抵抗運動(1)―義和団事件と植民地化―	C
第28回：植民地化と抵抗運動(2)―史料から義和団事件を考える―	B
第29回：植民地化と抵抗運動(3)―義和団を評価する―	A
期末試験	
第30回：歴史から考える現代世界	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	世界史における人物とその時代に関する問題を正しく（8割以上）答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題におおむね正確に（6割以上）答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題にほとんど答えることができない。
②	世界史における人物に関わる複雑な文書（史資料）を読解し、その内容を人物および当時の社会状況と関連付けることができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書（史資料）を読み理解することができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書（史資料）を読むことができない。
③	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価をするための重要な事実を複数集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価をするための事実を集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価をするための事実を集めることができない。
④	世界史上の人物について、史資料から導いた複数の事実をもとにし、かつ当時の歴史的背景を踏まえた論理的で説得力のある評価を行うことができる。	世界史上の人物について、史資料から導いた事実をもとにした論理的な評価を行うことができる。	世界史上の人物について、具体的な事実にもとづかない感覚的な評価を行っている。